

Zaitoune Meknèssa

Meknès of the Olives

モロッコでの活動レポート



Début des cours de nouvelle année

ー活動について Vol. 11

ー 2 回目の新年度コースが開講

今年は昨年より 1 か月早く同僚講師から準備はできているか？とメッセージがありました。同僚は昨年より早く開始し、コースを充実させようと実際に動いてくれたのです。実際には、ディレクターへの確認がお祭りや祝日と重なり時間を要してしまいましたが、1 週間早く開講し、生徒へのイントロダクションが行えました。おかげでスタートから好調に授業が進んでいます。

昨年は座学などに 3 か月を要し、生徒が実際にパソコンに触れたのは、タイピングの練習を始めた 2 か月後のことでした。しかし、今年度は既に座学とタイピングの練習を授業の前半と後半で行っています。そのため実際に触れたことのないパソコンに関する座学をシャワーの様に聞かされるより、理解が早く深まっていることが分かります。また生徒の授業への向き合い方も向上しました。生徒は少しでも時間を見つけると自主的にタイピングの練習を行っています。

教室の P C には限りがあり生徒は専用で使うことが難しいのが現状です。しかし、今年は早い段階でフォルダの作成や階層について学び、各自の名前のフォルダを作成。日々適切な場所にファイルを保存させるようにした所、生徒は授業に遅れることなく教室に来て、いつも同じ P C を使用できるようにしている様子も見られます。

そして、昨年より指導できることも増えています。早い段階で入力を急ぐあまり人差し指のみの入力に戻ってしまう生徒をこまめに指摘することが出来たり、入力しやすい姿勢とモニターの配置や P C の設定、教材と手元のキーボードと入力した画面の 3 つを見ながらではなく、まず教材と画面のみ、次に教材のみを見るようキーボードの配列を見ずにタイピングができるように指導レベルを上げています。

サ ナ サあ” イダ

Sana Sa3ida !

新年明けましておめでとうございます。任期満了を控え、活動の終わりを迎えています。

中川可奈子です。

ー JICA 海外協力隊

香川県善通寺市育ち、東京の I T 通信企業を退職。現在モロッコで 6 番目に大きな都市「Meknès」で、「PC インストラクター」として活動しています。



▼私の活動やモロッコについて、聞いてみたいことがありましたら、以下 QR コードより 2 0 2 5 年 2 月 1 0 日まで質問を募集しています。



▼以下の QR コードより私の過去の活動レポートを PDF (拡大可能) でご覧いただけます。



J'ai trouvé des KAKIs japonais au Maroc.

収穫の秋、日本の柿はモロッコにも！

暑い夏を経て、収穫の秋を迎えたモロッコですが、気候の影響を受けたり、ヨーロッパへの輸出の影響もあり、

昨年たくさん頂いた桃やいちじくを見かける機会は少なく、代わりに美味しい柿を頂いています。



柿はフランス語でも **Kaki** と呼ばれ、モロッコでも **Kaki** と呼ばれ、売られています。日本の柿と同様に甘味があり、とても美味しいです。

平たく丸みを帯びた四角い形と縦長の釣鐘状で種なしの 2 種類を見かけます。



食べやすいよう皮を剥いてくれますが、あっという間に色に染まってしまう、とても濃い赤紫色をした赤いサボテンの実

です。ザクロや緑色のサボテンの実の種と同様に種を飲み込み、食べられています。





Le petit l'examen d'information informatique

ー活動について Vol.12

----- I T 情報に関する中間テスト

着々と進んでいる今年度のコースは、11月に入り、既にIT情報に関する小テストを2回実施しました。昨年はカンニングをする生徒が多い上に、理解できている生徒も少なかったのですが、今年度の生徒は、まず自力で問題に取り組み、次に既に配布されている資料やノートを見ながら修正を加え、次に生徒同士で話し合い、最後に同僚講師が解説しながら答え合わせを行いました。昨年とクラスの雰囲気自体が異なるということもありますが、同僚講師が昨年以上に学習メソッドを取り入れ、授業の改善を行ってくれていることも分かります。そして、それがクラスの雰囲気作りの向上と生徒の理解度を高め、授業の進行のスピードアップにもつながっています。現在、昨年の1か月半早くWordの授業を始め、より多くの演習に取り組み、丁寧な指導が行えると確信しています。

オリーブ Oliveの収穫

任地メクネスは、オリーブで有名です。秋になるとメディナでは摘み取ったばかりの新鮮なオリーブの実が大量に並びます。私たちが普段手に入る加工後のものではありません。各家庭で下処理をして食べられるそうで、なんだか日本のお漬物や韓国のキムチのようだなあと思いました。また新鮮なオリーブを絞ったオリーブオイルが出回るのもこの時期だけです。少し濁りがあり、酸味や苦みがありますが、ビタミンなどの栄養が豊富なんだそうです。



私の必需品ー日々の生活や活動時の安心を与えてくれるショルダーポーチ



これはお世話になっていた東京の母が発前に持たせてくれたショルダーポーチです。最初の頃は心配性が災いして荷物が多く小さく感じていましたが、今では必要最低限の大事なものを安心して身に付けられる必需品です。財布には鈴とチェーンを付けており、上部のファスナーが容易に開けられないようカナビラを付け、付属の金具部分に引っ掛けています。



私の財布は1代目が100円均一のビニールポーチ。2代目が任国外旅行で購入したポルトガルのコルク素材のポーチ。現在使用している3代目は在住日本人の方によるベルベル刺繍入りの皮財布です。当初チェーンを付ける穴がなかったのですが、レザープレスレットを制作していたおじいさんに聞いてみると“任せろ！待ってる！”と言って、小さなパーツを探して戻り、あっという間に私の願いが叶いました。

これはお世話になっていた東京の母が発前に持たせてくれたショルダーポーチです。最初の頃は心配性が災いして荷物が多く小さく感じていましたが、今では必要最低限の大事なものを安心して身に付けられる必需品です。財布には鈴とチェーンを付けており、上部のファスナーが容易に開けられないようカナビラを付け、付属の金具部分に引っ掛けています。

小さいポケットには「ミニウナ（虫刺され薬）、UVカットのリップクリーム、常備薬、2粒パッケージのガム、トイレで流せるポケットティッシュ、ウエットティッシュ」が入っています。



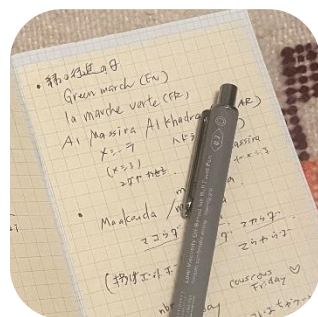
大きいポケットには、「財布、Darijaをメモするための野帳ノートとペン、スマホ」が入っています。

《持ち歩くペン問題》
私は普段、先が0.3mmのペンを使用しています。しかし使い慣れないのか、モロッコの人はいらいらして投げたり、ペン先を潰されることがありました。また生徒に貸すと返ってこない可能性が高く、こちらで購入した安価なペンは、本体やキャップが割れやすく液漏れすることがあり、100円均一のノック式ボールペンをたくさん持って来るべきだったなあと思いました。



野帳(測量野帳)改めビジネスシーン用のフィールドノートで語学学習！

日本で働いていた時はメモも含め、全てと言っても過言ではないくらい、パソコンの中にありました。スマホと同期して紙のメモを取る機会は少なかったです。しかし、ここではiPhoneは狙われるから気を付けろと言われ、スマホメモの習慣を封じられたことは、戸惑いの一つでした。また、難解な話し言葉のDarijaと多言語が飛び交うモロッコでは、スマホのメモに落とし込めず、困惑しました。そこで1冊だけ持ってきていた野帳の全ページに付箋を貼り、走り書きのメモをするようになりました。その場で、音をあてて書くアルファベット表記で書き込んでもらったり、WhatsAppでボイスメッセージを使用して、発音を送ってくれたりします。あとで少しずつ書き直し、何度も付箋を貼り直し、理解が定着してきたらジャンルごとにパソコンで見やすいよう小さく整理し、マスキングテープでページを足しています。毎日ポーチの中で揺さぶられる表紙と付箋の貼り替えにも耐える中紙に、やっぱり日本の紙製品は最高だと思いました！





モロッコ北部にある「白い鳩」の異名を持つ、スペイン語が飛び交う街“テトゥアン”

Mon petit voyage 任国内旅行— Vol.7

テトゥアン TETOUAN

2019 年一人旅で 1 泊をしたテトゥアンは、私のお気に入りの街です。降り立つとすぐに青い空と白い建物が映える風景に魅了されます。前回は近隣の海沿いの街を巡り散策できなかったメディナをテトゥアン隊員に案内してもらいました。モロッコにも方言があり、ここではリフ山脈から来たと思われるリフィーアという方言が使われ、スペイン語も使われます。女性たちが腰に巻いてエプロンとして使用する手織りのメンディール



という布や、ジュベーラというボンボン付の帽子など伝統的な衣装にも特徴があります。店主のマダムの代わりに店番をしていたところ、ガイド付きの観光客が身にまとい写真を撮っていました。夏には、モロッコ国王のモハメッド 6 世が静養のために滞在し、ハッサン 2 世広場に面した王宮から姿を見せられるそうです。



MEDINA 9ADIMA

モロッコの各都市には、旧市街と新市街があります。私たちは旧市街をメディナと呼ぶ世界遺産ですが、9adima (カディマ) という“古い”という単語を付けて、ムディナ カディマと言います。建物と道が入り組み、迷路の様だと言われます。テトゥアンのメディナでは、足元に写真の様な案内のマークがあり、モスクや水場などを示していました。



迷宮都市、巨大迷路と言われるフェスのメディナも、実は通りの名前が書かれた案内板の形で、行き止まりと通り抜けられることを示しています。



また、メディナの中でも混雑必須のスークと言われるエリアは通りごとに売られている物が集まっており、こうして地図を見つけることもできます。



高速鉄道 TGV



今回、カサブランクからモロッコ最北のタンジェを結ぶ TGV にも乗車。清潔感があり、静かであつという間に移動できます。大きなスーツケースを置く棚なども備わっており、とても快適な旅ができます。気になる運賃は 2 倍です。今後、マラケシュへの延伸や他都市への拡大も計画されています。



旧市街にある一番狭い路地

一見、狭くて暗く、通り抜けられそうにない入口ですが、フェスの旧市街にある一番狭い通り抜けられる路地です。ガイドに案内されてきた観光客の通行もありましたが、地元の人々が購入した食材などを手に下げて、今も行き来し生活の中で使用されている路地でした。



冬の伝統衣装

寒くなってくるとモロッコの伝統衣装であり普段着である、ジェラバの冬バージョン、アウターバージョンが出回ります。特に写真のタイプは男性が着るイメージです。袖やフードのないロングベストの様なタイプは、仕事をするときの作業着的に着用されています。重くてかさばるのが難点ですが、温かく生地も丈夫です。





改装工事のため閉鎖されていたラディム広場が解放されました！メクネスのタクシーは可愛い水色です♪

メ ク ネ ス

Promenade dans la ville de "Meknès"

- 私の任地“メクネス”の街歩き - Vol.4

観光名所の改修プロジェクト

モロッコでは2019年から2023年にかけて観光名所となる各施設などが改装されてきました。しかし工事の進行はインシャーラー（神が望んだら）です。特にメクネスでは資金が尽きたとか、作業員が集まらないなどと言われるほど工事の進みは遅く、街の顔として有名なマンスール門やスワニと呼ばれている穀物倉庫と貯水池などが今も閉鎖中です。

そんな中、夏に解放された旧市街の入口となるラディム広場。去年は震災のため中止になった秋の音楽祭のため、ステージが組み立てられ、たくさんの人々が集まり賑わい楽しま

れていました。

←いつまでたっても改修が終わらないマンスール門の改修にじびれを切らしたのか、メディナ内の壁に描かれていました。



生活に必要なものは旧市街にあり

スーパーマーケットやハイパーマーケットは日本と同様に便利ですが、世界遺産として登録され、観光名所となった旧市街のメディナは、今も生活になくてはならない存在です。タジンやクスクス、ハリラスープなどに使用するスパイスはスークのスパイス屋の店主にブレンドしてもら

います。Ras el Hanout ラス エル ハヌート と言って店主の最高の Mix スパイスと言うそうです。



モロッコの伝統衣装であるジェラバやカフタンも縫製街で制作されています。←写真は左手で生地を抑えながら、足でミシンを踏み、右手で卓下のレバーを回しながらジェラバの胸元の渦巻きのようなデザインを施しているところです。全身を使うこの作業もまた男性の仕事です。



ハイテクゴミ回収！

モロッコのゴミ回収事情



海外ではとても大きなゴミを回収するコンテナを街中で見かけることがあります。モロッコでも同様に大きなコンテナを見かけることもあれば、写真のようにゴミの分別を示す表記のある集積所もありますが、ほとんど一緒に捨てられています。私が分別して出しているとアパートのガーディアンに褒められます(笑) また、彼らはペットボトルを回収して売りに行っているようです。



モロッコではパン(ホブス)だけは、家畜の餌にされるため分別されます。他のものは全ていっしょくたなのに、残り物の硬くなったホブスだけは頑なに分別していて、なんだかなあと思う不思議な習慣です。

そんなある日の朝、収集車から長いコードを引っ張り、集積所の横に繋いだかと思うとその集積所がリフトになっていて、下から大きなコンテナが3つも姿を現しました。いつも見えている3つのゴミ入れは入口に過ぎなかったのです。

また、





カラフルなストライプ柄の家が並ぶ大西洋に面した漁師町の COSTA NOVA

任国外旅行 2024 l'été — いくつか条件や制限がありますが、任国外へ旅行が可能です。

PORTUGAL/PORTO

2度目の任国外旅行。暑い任地の夏を飛び立ち向かったのは、EU 圏で一番物価が安く、私の好みを刺激する昨年と同じポルトガル。今回は、北部にあるポルトのアパートに滞在し、食材を買ってきて料理をしたり、電車で1, 2時間の都市へ日帰り旅を楽しんだり日本でもモロッコでもない景色の中、気ままな休暇を過ごしました。大混雑でしたが、世界一美しい本屋と言われているレロ書店や直島にある水玉模様のかぼちゃで有名な草間彌生展が開催されていて、現代アートも楽しみました。



AVEIRO & COSTA NOVA

電車で 50 分。ラグーン(潟)に囲まれたベネチアのような水の都 アヴェイロでバスに乗り換え、大西洋に面するコスタノバへ。写真で見たまのストライプのカワイイ家々が並びます。日本でも有名なテーブルウェアのブランドのコスタノバは、ここから日本へ届いています。写真を撮りながらビーチまで散策して回り、お目当てのトリパスを頂きました。トリパスとはポルトではポルトガル風モツ煮込みの事を言いますがコスタノバではモチモチとしたクレープを畳んだようなスイーツの事を言います。



SINTRA

カラフルでおとぎの国のお城の様なペーナ宮殿や RPG ゲームの世界の中にあるダンジョンのようなレガレイラ宮殿にあるイニシエーションの井戸と呼ばれる地下に向けて伸びる「逆さ塔」を巡りました。また、友人に教えてもらったシントラ名物の Casa Piriquita の Queijada と Travesseiro というスイーツを頂きました。



LISBOA



機が残っています。可愛い絵本などが並ぶ、素敵な空間でした。

リスボン郊外に位置する倉庫街の跡地を活用した若者に人気の流行の発信地と言われているアートのある商業施設 LX Factory。既存の施設や建物を活用した情報発信地は活気があり Ler Devagar という本屋はもともとは印刷工場。店内に大きな印刷機が残っています。



PROMENADE DANS LA VILLE DE "MEKNÈS" -私の任地“メクネス”の街歩き-VOL.5

VOLUBILIS 遺跡 (Walili)



モロッコ最大の古代ローマ遺跡のヴォルビリス遺跡へ、後輩隊員たちと一緒に訪れてきました。広大な敷地に建物の基部と床を彩ったモザイクタイルが今も残ります。イスラム文化のモロッコで、任地のメクネス市内から Taxi で 30 分と言う場所に、これほどまでの規模で古代ローマの遺跡が残っていることに驚き、不思議な感覚で神秘さにも魅了されました。